

ある孤独な老人が、次のような遺書を残し病死した。

もうおしまいだ。

何をやっても全く蛇目で、いつも貧乏籤をひいていた私が、漸く手にした幸せだったのに…

思えばこの五年間、読書をしたり料理を作ったり映画を見たり、今までは想像すら出来なかった素晴らしい生活が出来ていた。そこで満足をしていればよかったのに、人間というものは豊かになればますます欲望が増すようだ。あっという間に財産はなくなり、友人も金が無くなるとすぐさま放れていった。もう私に生きる気力はない。おそらく生きる体力も残っていないだろう。

しかし、自分で自分を殺す恨性はない。誰か病で苦しむ前に私を殺してくれないだろうか…

誰かこの老いぼれと話したい人がいるなら、5時前集合で頼む。私の隠し財産を譲ろう。

この老人の部屋を搜索したところ、1つの金庫が出てきた。どうやらこの金庫のパスワードは4桁の数字らしいが…

さて、この4桁の数字とはなんだろう？